

KISSEI

証券コード：4547

決算補足資料

平成30年3月期 通期決算

2018年（平成30年）5月8日

 **キッセイ薬品工業株式会社**

目次

【決算短信「当期の経営成績の概況」より抜粋】	P 1
I. 連結損益計算書の推移	P 2
II. 連結貸借対照表の推移	P 4
III. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移	P 6
IV. 配当の推移	P 7
V. 主な医薬品の売上推移	P 8
VI. 新薬開発状況（自社）	P 9
VII. 新薬開発状況（導出）	P 9

本資料記載の将来見通しは、既存の情報や様々な動向についてのキッセイ薬品による 2018 年 5 月時点での分析に基づいています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により見通しと異なることがあります。

【決算短信「当期の経営成績の概況」より抜粋】

・売上高（医薬品事業）の状況

医薬品事業の売上高は、638億9千1百万円（前連結会計年度比4.0%増）となりました。長期収載医薬品などの売上が減少いたしましたが、主力製品における積極的な医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、高リン血症治療薬「ピートルチュアブル錠」、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ錠」及び「ユリーフOD錠」、腎性貧血治療薬「エポエチンアルファBS注JCR」などの売上が増加いたしましたことに加え、輸出売上や技術料売上が増加いたしましたことにより増収となりました。なお、EAファーマ株式会社と共同開発を行いました潰瘍性大腸炎治療薬「レクタブル2mg注腸フォーム14回」を昨年12月に新発売いたしました。また、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬シロドシン（一般名、日本製品名ユリーフ）の欧州・中東・アフリカなどにおける技術導出先でありますレコルダッチ社（イタリア）では、当連結会計年度におきましても引き続き許諾地域内において製品育成を進めております。

・売上高（その他の事業）の状況

その他の事業の売上高は、101億1千8百万円（前連結会計年度比1.3%減）となりました。情報サービス業で増収となりましたものの、物品販売業、建設請負業におきまして減収となりました。

・利益の状況

利益面では、研究開発費を主に販売費及び一般管理費が増加いたしましたものの、増収により、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は増益となりました。

・研究開発の状況

昨年9月にピートルチュアブル錠の剤形追加（顆粒剤）の承認申請を行いましたほか、同月には、過活動膀胱治療薬KRP-114V（開発番号、一般名：ビベグロン）について当社との共同開発先であります杏林製薬株式会社より承認申請が行われました。昨年6月にビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ社（スイス）との間で、日本での独占的開発・販売権取得に関する契約を締結いたしました補体C5a受容体阻害剤CCX168（開発番号、一般名：アバコパン）につきましては、ケモセントリクス社（アメリカ）が実施しております第Ⅲ相国際共同治験に参画しております。また、JCRファーマ株式会社と共同開発を行っております持続型赤血球造血刺激因子製剤ダルベポエチンアルファ（一般名）のバイオ後続品JR-131（開発番号）の第Ⅲ相臨床試験において、先行バイオ医薬品との同等性が検証されました。なお、一昨年7月に承認申請を行いました糖尿病治療薬「グルベス配合錠」の剤形追加（口腔内崩壊錠）につきましては、昨年6月に承認申請を一旦取り下げ、追加試験を実施しております。また、EAファーマ株式会社と共同開発を行っております潰瘍性大腸炎治療薬AJM300（開発番号、一般名：カロテグラストメチル）につきましては、追加の第Ⅲ相臨床試験を開始いたしました。

I. 連結損益計算書の推移

(百万円)

項目	決算期 '17(H29)年 3月期	'18(H30)年3月期			'19(H31)年3月期予想		
		予想*1	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
売上高	71,706	75,000	74,009	3.2%	71,700	△3.1%	35,700
キッセイ薬品	61,454	64,000	63,891	4.0%	61,000	△4.5%	30,000
医薬品	51,072	53,600	53,340	4.4%	51,400	△3.6%	25,000
ヘルスケア食品	3,840	3,950	3,796	△1.2%	4,000	5.4%	2,000
その他*2	6,541	6,450	6,755	3.3%	5,600	△17.1%	3,000
その他の事業	10,251	11,000	10,118	△1.3%	10,700	5.8%	5,700
(売上高のうち輸出)	(6,318)	(8,110)	(8,343)	(32.0%)	(6,900)	(△17.3%)	(3,400)
売上原価	25,075	26,700	25,889	3.2%	26,800	3.5%	13,700
(原価率%)	(35.0)	(35.6)	(35.0)		(37.4)		(38.4)
売上総利益	46,631	48,300	48,120	3.2%	44,900	△6.7%	22,000
販売費及び一般管理費	38,140	38,800	38,232	0.2%	37,000	△3.2%	18,500
(研究開発費)	(13,877)	(14,700)	(14,179)	(2.2%)	(13,000)	(△8.3%)	(6,500)
営業利益	8,491	9,500	9,887	16.4%	7,900	△20.1%	3,500
営業外収益	1,271	1,800	1,558	22.6%	1,100	△29.4%	550
受取利息及び配当金	963		1,081	12.3%			
その他の収益	308		477	54.6%			
営業外費用	124	200	32	△73.9%	100	212.5%	50
支払利息	24		23	△4.5%			
その他の費用	100		8	△91.3%			
経常利益	9,638	11,100	11,414	18.4%	8,900	△22.0%	4,000
特別利益	670	320	320	△52.2%	-	-	-
特別損失	192	20	37	△80.6%	-	-	-
税金等調整前当期純利益	10,116	11,400	11,697	15.6%	8,900	△23.9%	4,000
法人税、住民税及び事業税	2,291	3,200	3,223	40.7%	2,400	△25.5%	900
法人税等調整額	59	△440	△624	-	△140	-	80
非支配株主に帰属する 当期純利益	39	40	52	35.6%	40	△23.1%	20
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,726	8,600	9,045	17.1%	6,600	△27.0%	3,000

(包括利益)

(3,508)

(25,044) (613.7%)

*1：2018年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

*2：国内販売提携先供給額、技術料売上（導出テーマに係る契約金、マイルストーン収入、ランニングロイヤリティ）の合計額です。

売上高	<p>実績： キッセイ薬品：4.0%増収 医薬品、その他が増加。医薬品ではグルファストや長期収載品（ベザトール、ウテメリンなど）が減少したが、ピートル、ユリーフ、エポエチナルファBS注、グルバスや輸出売上が増加。その他では技術料売上が増加、国内販売提携先への供給額が減少。 その他の事業：1.3%減収 情報サービス業が増収、物品販売業と建設請負業が減収</p> <p>予想： キッセイ薬品：4.5%減収 医薬品では、引き続きユリーフ、ピートル、グルバスなどの育成を図るものの、本年4月に実施された薬価改定の影響や技術料売上の減少などにより減収の見込み。 ヘルスクエア食品は増加、その他は技術料売上、国内販売提携先への供給額ともに減少。 その他の事業：5.8%増収 情報サービス業、物品販売業、建設請負業ともに増収の見込み。</p>
売上原価	<p>実績：売上原価率は前年度と同率 キッセイ薬品の売上原価率の上昇をその他の事業の売上原価率の低下でカバーし、全体では前年度と同率となる。</p> <p>予想：売上原価率は2.4ポイント上昇 キッセイ薬品の売上原価率は薬価改定の影響などにより上昇を見込む。その他の事業でも事業構成の変動などにより上昇を見込む。</p>
販売費及び一般管理費	<p>実績：前年比0.2%増加 一般管理費と研究開発費が増加、販売費が減少。販売費の減少は、新製品市場導入費の減少などによる。</p> <p>予想：前期比3.2%減少 販売費で増額、一般管理費と研究開発費で減額の見通し。</p>
営業外損益	<p>実績：有価証券評価益が増加したことに加え、為替差損が減少。</p> <p>通期：特別なものは見込んでいない。</p>
特別損益	<p>実績：投資有価証券売却益、固定資産処分損を計上。</p> <p>予想：特別なものは見込んでいない。</p>

【その他項目（連結）】

（百万円）

項目	決算期	'17(H29)年 3月期	'18(H30)年3月期			'19(H31)年3月期予想		
			予想*	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
減価償却費		2,370	2,530	2,492	5.2%	2,700	8.3%	1,320
設備投資額		1,477	1,850	1,989	34.6%	940	△52.7%	580
主要内容		生産設備等 747 その他 730	生産設備等 560 その他 1,290	生産設備等 613 その他 1,375		生産設備等 310 その他 630		生産設備等 220 その他 360
期末従業員数(人)		1,905	-	1,903	△2	-	-	-

*：2018年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

II. 連結貸借対照表の推移

(百万円)

項目		決算期	'17(H29)年 3月期	'18(H30)年 3月期	増減
資 産	流動資産		97,218	100,599	3,381
	現金及び預金		27,109	24,371	△2,737
	受取手形及び売掛金		24,730	28,873	4,142
	特定金銭信託及び有価証券		24,409	27,059	2,650
	棚卸資産		16,726	15,933	△793
	繰延税金資産		2,179	2,436	256
	その他の流動資産		2,063	1,925	△137
	固定資産		89,582	112,487	22,904
	有形固定資産		26,308	26,396	88
	無形固定資産		1,845	1,716	△129
	投資その他の資産		61,428	84,374	22,945
	投資有価証券		58,344	81,194	22,850
	長期前払費用		1,454	1,608	153
	繰延税金資産		517	500	△17
	その他の投資等		1,164	1,125	△39
	貸倒引当金		△53	△54	△1
	資産合計			186,801	213,087

現金及び預金	・利益による増加があった一方、期末の金融機関休日による売掛金の未決済に伴う減少
受取手形及び売掛金	・期末の金融機関休日による売掛金の未決済に伴う増加
特定金銭信託及び有価証券	・有価証券の新規購入と時価評価による評価益の計上に伴う増加
棚卸資産	・医薬品事業における原材料の減少、その他の事業における未成工事支出金の増加
その他の流動資産	・医薬品事業における前払費用の減少
有形固定資産	・減価償却による減少の一方で、機械及び装置、工具・器具及び備品などの増加
無形固定資産	・新規取得資産の計上による増加の一方で、減価償却による減少
投資有価証券	・主として、時価評価による含み益の増加
長期前払費用	・減価償却による減少の一方で、新規取得資産の計上による増加

(百万円)

項目		決算期	'17(H29)年 3月期	'18(H30)年 3月期	増減
負 債	負債合計		29,017	36,994	7,976
	流動負債		15,656	17,448	1,791
	支払手形及び買掛金		4,849	4,894	44
	短期借入金		1,800	1,757	△42
	未払法人税等		1,055	2,375	1,319
	その他の流動負債		7,950	8,420	470
	固定負債		13,361	19,546	6,184
	長期借入金		1,656	1,876	220
	退職給付に係る負債		5,379	4,623	△755
	繰延税金負債		5,645	12,201	6,556
	その他の固定負債		680	843	163
純 資 産	純資産合計		157,783	176,092	18,309
	株主資本		137,499	139,809	2,310
	資本金		24,356	24,356	-
	資本剰余金		24,226	24,226	△0
	利益剰余金		101,755	102,834	1,079
	自己株式		△12,838	△11,607	1,231
	その他の包括利益累計額		19,954	35,892	15,938
	非支配株主持分		329	390	60
負債及び純資産合計			186,801	213,087	26,285

未払法人税等	・所得増に伴う増加
その他の流動負債	・その他の事業における未成工事受入金の増加
退職給付に係る負債	・年金資産の増加による減少
繰延税金負債	・投資有価証券の含み益増加に伴う増加
利益剰余金	・期中配当金支払い△2,270、自己株式の消却△5,695、親会社株主に帰属する当期純利益+9,045
自己株式	・取得による増加△4,464（単元未満株式の取得を含む）と消却による減少+5,695
その他の包括利益累計額	・投資有価証券の含み益増加に伴う評価差額金の増加、退職給付に係る調整累計額の増加

Ⅲ. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移

(百万円)

項目	決算期	'17(H29)年 3月期	'18(H30)年 3月期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー		6,441	8,845	2,403
投資活動によるキャッシュ・フロー		△4,671	△2,959	1,711
財務活動によるキャッシュ・フロー		△3,766	△6,621	△2,854
現金及び現金同等物に係る換算差額		△0	△2	△1
現金及び現金同等物の増減額		△1,996	△737	1,258
現金及び現金同等物の期首残高		50,094	48,098	△1,996
現金及び現金同等物の期末残高		48,098	47,360	△737

主な増減要因（前期比）

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー：増加

営業活動の結果得られた資金は、売上債権の増加などの資金の減少要因がありましたが、税金等調整前当期純利益、仕入債務及びその他の流動負債の増加などが資金の増加要因となり、前連結会計年度に比べ24億3百万円増の88億4千5百万円となりました。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー：増加（支出減）

投資活動の結果使用した資金は、投資有価証券の売却による収入の減少や有形固定資産の取得による支出の増加がありましたが、無形固定資産及び投資有価証券の取得による支出が減少したため、前連結会計年度に比べ17億1千1百万円支出減の29億5千9百万円の支出となりました。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー：減少（支出増）

自己株式の取得などにより、支出増となりました。

IV. 配当の推移

(円)

項目 \ 決算期	'16(H28)年 3月期	'17(H29)年 3月期	'18(H30)年 3月期	'19(H31)年 3月期予想
中間配当	22	23	24	25
年間配当	44	46	48	50

(参考)

(百万円)

自己株式の取得 (取得株式数)	－ －	1,647 (610千株)	4,462 (1,600千株)	－ －
自己株式の消却 (消却株式数)	5,403 (2,600千株)	－ －	5,695 (2,500千株)	－ －

V. 主な医薬品の売上推移

(百万円)

製品名	決算期 '17(H29)年 3月期実績	'18(H30)年3月期			'19(H31)年3月期予想		
		予想*	実績	前期比	通期	前期比	うち上期
排尿障害改善薬 ユリーフ	16,164	17,000	17,235	6.6%	17,700	2.7%	8,700
糖尿病治療薬 グルベス	4,204	4,500	4,477	6.5%	4,600	2.7%	2,300
糖尿病治療薬 グルファスト	3,681	2,800	2,762	△24.9%	1,530	△44.6%	830
高リン血症治療薬 ピートル	3,070	4,800	4,274	39.2%	5,800	35.7%	2,600
口腔乾燥症状改善薬 サラジェン	1,526	1,650	1,561	2.3%	1,630	4.4%	800
潰瘍性大腸炎治療薬 レクタブル	-	-	228	-	570	150.0%	270
腎性貧血治療薬 エボエチンアルファBS注JCR	5,792	6,000	6,093	5.2%	5,600	△8.1%	2,800
高脂血症治療薬 ベザトール	3,016	2,550	2,564	△15.0%	1,720	△32.9%	900
切迫流・早産治療薬 ウテメリン	2,296	1,950	1,904	△17.1%	1,180	△38.0%	620
脳循環改善薬 キサンボン	563	500	483	△14.2%	330	△31.7%	180
アレルギー性結膜炎治療薬 リザベン点眼液	1,141	1,000	989	△13.4%	800	△19.1%	340
アレルギー性疾患治療薬 リザベン	959	820	812	△15.3%	340	△58.1%	180
気管支喘息治療薬 ドメナン	122	110	102	△16.0%	100	△2.0%	50
血液凝固阻止剤 フラグミン	201	170	182	△9.8%	140	△23.1%	70
子宮内膜症治療薬 ゾラデックス1.8mgデポ	577	580	560	△3.0%	520	△7.1%	260
活性型ビタミンD ₃ 製剤 フルスタン	624	580	557	△10.7%	400	△28.2%	200

* : 2018年3月期第2四半期決算発表時に公表した予想数値

VI. 新薬開発状況（自社）

(平成30年5月現在)

開発段階	製品名／ 開発番号 (一般名)	開発区分	予定適応症	主な作用等	備考
承認申請中	KRP-114V (ビベグロン)	導入品／杏林製薬 共同開発	過活動膀胱	β3アドレナリン受容体 刺激作用	
	ピートル® (スクロオキシ水酸化鉄)	導入品／ピフォー・フレゼ ニウス・メディカル・ケア・ リーナル・ファーマ(スイス)	透析中の慢性腎臓病 患者における高リン血症 の改善	リン吸着作用	剤形追加 (顆粒剤)
第Ⅲ相	KPS-0373 (ロパチレリン)	導入品／塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出 ホルモン(TRH)作用	
	AJM300 (カロテグラストメチル)	導入品／EAファーマ 共同開発	潰瘍性大腸炎	α4インテグリン阻害作用	
	JR-131	導入品／JCRファーマ 共同開発	腎性貧血	赤血球増加作用	ガルベポエチンアルファ バイオ後続品
	CCX168 (アバコパン)	導入品／ピフォー・フレゼ ニウス・メディカル・ケア・ リーナル・ファーマ(スイス)	抗好中球細胞質抗体 (ANCA)関連血管炎	補体C5a受容体阻害 作用	
第Ⅱ相	KLH-2109	創製品	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト	
	MR13A9 (ジフェリケファリン)	導入品／丸石製薬 共同開発	透析患者における そう痒症	κオピオイド受容体刺激 作用	
第Ⅰ／Ⅱ相	YS110	導入品／ワイス・イー・シー、 東京大学、日本医薬研究 開発機構(AMED)	悪性中皮腫	抗CD26ヒト化モノクロー ナル抗体	
第Ⅰ相	KDT-3594	創製品	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激 作用	

※ 前回公表時（平成30年1月）からの変更点：アバコパン … 第Ⅰ相 → 第Ⅲ相

VII. 新薬開発状況（導出）

(平成30年5月現在)

開発段階	開発番号／ 一般名	提携企業	権利地域	予定適応症	主な作用等
承認申請中	ミチグリニド (mitiglinide)	エーザイ(日本)	アセアン*1	2型糖尿病	速効・短時間型 インスリン分泌促進作用
	シロドシン (silodosin)		アセアン、インド、スリランカ*2	前立腺肥大症に 伴う排尿障害	α1Aアドレナリン受容体 拮抗作用
第Ⅲ相	KLH-2109	オブシーバ(スイス)	日本、一部のアジアを除く 全世界	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト
第Ⅱ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メディシノバ(アメリカ)	日本を除く全世界	喘息の急性発作	β2アドレナリン受容体 刺激作用
	KLH-2109	オブシーバ(スイス)	日本、一部のアジアを除く 全世界	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト
第Ⅰ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メディシノバ(アメリカ)	日本を除く全世界	COPD	β2アドレナリン受容体 刺激作用

※ 前回公表時（平成30年1月）からの変更点：なし

*1：発売：タイ、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、申請中：2か国

*2：発売：タイ、インド、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、承認：マレーシア、申請中：アセアン2か国